

いちばん身近な文芸誌

編集・発行 **日本民主主義文学会**

TEL 03-5940-6335 FAX 03-5940-6339
メール info@minsyubungaku.org
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-29-9 -202

民主文学

11月号から新連載スタート

この機会に、
『民主文学』を
ぜひご購読くだ
さい。

民主文学 10



祥賀谷 悠(しょうがたに ゆう)
これまでに長編小説『南紀州』3部作、『果無の道』、『熊野川・新鹿の浜辺で』が単行本に。短編小説『日置川』は、『民主文学』二十四年十一月号に掲載。
地方新聞記者を経て団体職員に。『静かなドン』に影響を受け、十九歳で日本民主主義文学同盟(現文学会)に加盟。和歌山県西牟婁郡在住。



山ももの熟れる谷

過疎の半島に突如の原発立地計画。自然あふれる町で生きる二人の青春の日々。

「自然公園をつくる」―この偽りの説明で原発用地の買収が行われた。太平洋を望む紀伊半島の過疎の町に突如ふってわいた原発立地計画。高校生の葉一と央美はこの町で淡い想いを通わせる。自然あふれる半島に相次いで9ヶ所もの原発の計画。スリーマイル、チェルノブイリと原発の過酷事故が発生してなお「原発は安全」と推進する電力資本と国。故郷の自然、生きとし生けるものの命を守ろうと起ちあがる人びと。強大な相手との十数年のたたかいを経て原発を阻止した住民、そして2人の恋の物語。

作者の言葉

この小説はいつか書いてみたいと思っていました。原発立地には巨額のカネが動き、過疎に苦しまる自治体もそこに住む人々もそれに翻弄されます。

日本の原発は国と電力資本の横暴により、建ててはならない地盤の上に作られ、やがて必ず取り返しのできない事態を引き起こします。

紀伊半島に原発を許さなかった人々の運動を、地元に残って生きてゆこうとする2人の若い男女の淡い青春の日々を描いた物語です。

(全11回の連載予定)

★下の用紙を切り取って、FAXあるいは郵送でお申込ください。雑誌は直接ご自宅にお送りします。

購読申込書

申し込み

月 日

民主文学購読費 月額1000円(送料込み)

FAX番号 03(5940)6339

いずれかに○印をつけてください。

- () 11月号より定期購読する。
() 「山ももの熟れる谷」連載中期間のみ定期購読する。

お名前

ご住所 〒

電話番号